



TOHOKU
UNIVERSITY

東北大学

TOHOKU UNIVERSITY

Press Release

2023年7月12日

報道機関 各位

国立大学法人東北大学

総合知を行動に繋げ持続可能な社会の実現へ 東北大学知識行動オープン・プラットフォーム「SOKAP」が始動！ ～Sustainability Open Knowledge-Action Platform “SOKAP”～

【概要】

東北大学ではこのたび、持続可能な社会の実現に向けて、「社会とともにある大学」として従来型の枠組を超えた「Transdisciplinary」により最先端の知を迅速にアクションに繋げる知識行動オープン・プラットフォーム「SOKAP（ソカップ）」（=Sustainability Open Knowledge-Action Platform）の形成に向け、未来を豊かにするためのイニシアチブを開始しました。

持続可能な社会を実現するためには、エネルギー、感染症、食糧生産と消費、気候変動、生物多様性喪失など様々な社会課題の解決が必要です。これらの課題解決においては、人文・社会科学と自然科学との融合による「総合知」の活用はもとより、地域社会や民間企業、海外研究機関など多様なステークホルダーとの共創による新たな価値創造が求められています。近年、研究から社会実装への展開のスピードが加速し、プロジェクト計画段階から社会実装を見据えマルチアクターで協働する必要性が高まるなど世界の価値創造の様式が大きく変わりつつあります。

本オープン・プラットフォームは、このような潮流を先導し持続可能な社会の実現や人類の幸福に貢献するため、多様なステークホルダーとの共創により「総合知」による最先端研究の推進はもとより、社会を変えていく人材の育成、社会との双方向コミュニケーションによる信頼性の高い協働を実現する取り組みです。

また、今般、新たに創設した研究プログラム「SOKAP-Connect（ソカップ-コネクト）」（=Sustainability Open Knowledge-Action Program by Connecting Multi-stakeholder）において4つのプロジェクトを推進することと致しました。これらのプロジェクトでは、本学の異なる分野の研究者、また協力者として海外研究者、若手研究者や学生、民間企業所属の研究者など多様なステークホルダーに属する人々でグループを構成し、研究活動や情報発信の協働により研究成果を迅速にアクションへ繋げ、新たな価値を創造します。

【問い合わせ先】

担当 東北大学研究推進部研究推進課研究推進係

電話 022-217-5014

E-mail kenkyo-kikaku@grp.tohoku.ac.jp

総合知を行動に繋げ持続可能な社会の実現へ

東北大学知識行動オープン・プラットフォーム

Sustainability
Open-Knowledge-Action Platform

“SOKAP”

2023年7月12日

TOHOKU
UNIVERSITY



世界トップレベル有識者より構成する構想検討委員会を令和4年5月に設置、同年12月まで、東北大学が総合知により持続可能な未来社会を実現し、真に人類の幸福度の向上に貢献するため、東北大学のビジョン「Green Goals Initiative」体現のシンボルとなる構想について複数回議論を重ね、以下の進言をまとめた。

1. 研究分野について

- **持続可能な社会構築に向けての課題解決を駆動力**とし、東北大学が有する強み、世界最先端の優れた研究資産を活用すべきである。
- 社会的にインパクトをもたらし、人類の幸福度の向上（ウェルビーイング）に繋げるためには、人文・社会科学を含む**総合知が必要不可欠**である。

2. 人材育成について

- 持続可能な社会を実現するためには、**自らが社会を変革する意欲を持つ大学院生や研究者の人材育成**が重要である。
- 若手人材の育成とともに、**リスキリング（職業能力の再開発・再教育）も含めた「生涯学習」**が、より広範囲の社会的インパクトを産み出す。
- 社会と一体での人材育成という観点で、**プランニングの段階から産業界との対話・参画**が重要である。

3. 多様なステークホルダーとの連携を促進する仕組みについて

- 大学内外の壁、更にはセクターの壁を越えた**多様なステークホルダーとのチームビルディングを促進する仕組み**により、卓越した研究のインパクトを社会に波及させる。

4. 外部ステークホルダーとの対話について

- 様々なステークホルダーとのコミュニケーションは、**真の社会課題の特定**に重要であり、その**コミュニケーションは双方向的かつ継続的なもの**であるべきである。
- 民間の専門家（例：ジャーナリスト）やSNSを含む様々なメディアと協働し、**信頼性の高い有益な情報を社会に対して安定的に発信**することが重要である。

持続可能な社会の実現を目指す オープン・プラットフォーム構想 “SOKAP”

持続可能な社会の実現や人類の幸福への貢献を目指し、多様なステークホルダーとの共創により、「総合知」による最先端研究の推進、社会を変えていく人材の育成、社会との双方向コミュニケーションによる信頼性の高い協働を実現するオープン・プラットフォーム

SUSTAINABILITY OPEN KNOWLEDGE-ACTION PLATFORM (SOKAP)

サステナビリティ科学

- ✓ 地球システム科学
(大気・海洋、地震、生態系など)
- ✓ 加齢医科学 (スマートエイジング)
- ✓ エネルギー・物質材料科学
(グリーンテック・ブルーテック)
- ✓ 災害科学 (災害リスク低減)
- ✓ 人文・社会科学
- ✓ 量子・デジタル科学 など

リサーチ

ローカルから
グローバルまで
持続可能性を切り拓く
最先端の
基礎・応用科学

学生から
シニアまで
世代を超えた
リスキリングと
人材育成の場

トレーニング

人材育成

学生、若手研究者、リスキリングといった学ぶ意欲のある者すべてに対して、オープンで多様なメニューからデザインされたトレーニングシステムを提供。特に学生には、他の分野、民間企業、海外、セクターへ触れる機会を創出。



次代の持続可能性
をクリエイトする
オープン・プラットフォーム
SOKAP

産学官双方向型
コミュニケーションによる
一体的な共創循環
と新価値創造

あらゆる壁を越えた
課題解決・共創型
共同研究プロジェクト
の設計と実践

プロジェクト

外部とのインターフェースとなる部門の創設

国内外の研究コミュニティ、市民、産業界、政策的ネットワークとの戦略的パートナーシップ構築し、双方向コミュニケーションを継続的に推進する部門を設置



インターフェース

4つの機能が相互に作用

“触媒”機能を果たすプロジェクトの展開

多様なステークホルダーを巻き込む課題解決型のプロジェクトを立案・実施。分野融合・共創型のチームビルディングを促進することで、ステークホルダー間の対話の活発化や自発的な行動変容へ繋げる。



東北大学が従来導入している、研究をミッション別に三層化した独自の「三階層イノベーションシステム」を活用し、「SOKAP」を価値創造の「場」として、核となるフラグシップ研究所に本学のトップレベル研究者を集結し国際プロジェクトを推進するだけでなく、意欲のあるあらゆる研究者が参画し、トップダウン型とボトムアップ型の研究を有機的に連結することで「伝統的な学術領域に基づく拠点からの離脱」を実現し、システムチックに人類の幸福と未来に貢献する。

東北大学

SOKAP

第一階層(高等研究機構)

●世界トップレベル4拠点

材料科学、スピントロニクス、
未来型医療、災害科学

●学際科学フロンティア研究所

●国際ジョイントラボセンター

エネルギー材料

次世代デバイス

ホメオスタシス
リサーチ

災害リスク科学

海洋・地球・生命

グリーン・テック

生物多様性

サーキュラー・
エコノミー

量子
ソリューション



リサーチ (FIS)

最先端の持続可能性研究

- ・ ビジョン：地球共生型のレジリエントな地球-人間システムの未来構築
- ・ ミッション：グローバル課題の解決に挑み、幸福度と持続可能性を向上する



トレーニング

- ・ 生涯学習
- ・ リスキング
- ・ 人材育成



高等大学院機構

プロジェクト

課題解決・共創型
共同研究



- ・ 学内スタート研究支援
- ・ 共創研究所
- ・ 未来社会デザイン塾
- ・ シティズン・サイエンス

アウトリーチ

国内・国際
市民、産業界
アカデミア、政策的ネットワーク
戦略的パートナーシップと
双方向コミュニケーション



第三階層

研究者の自由な発想に基づく
多様性に富む研究群

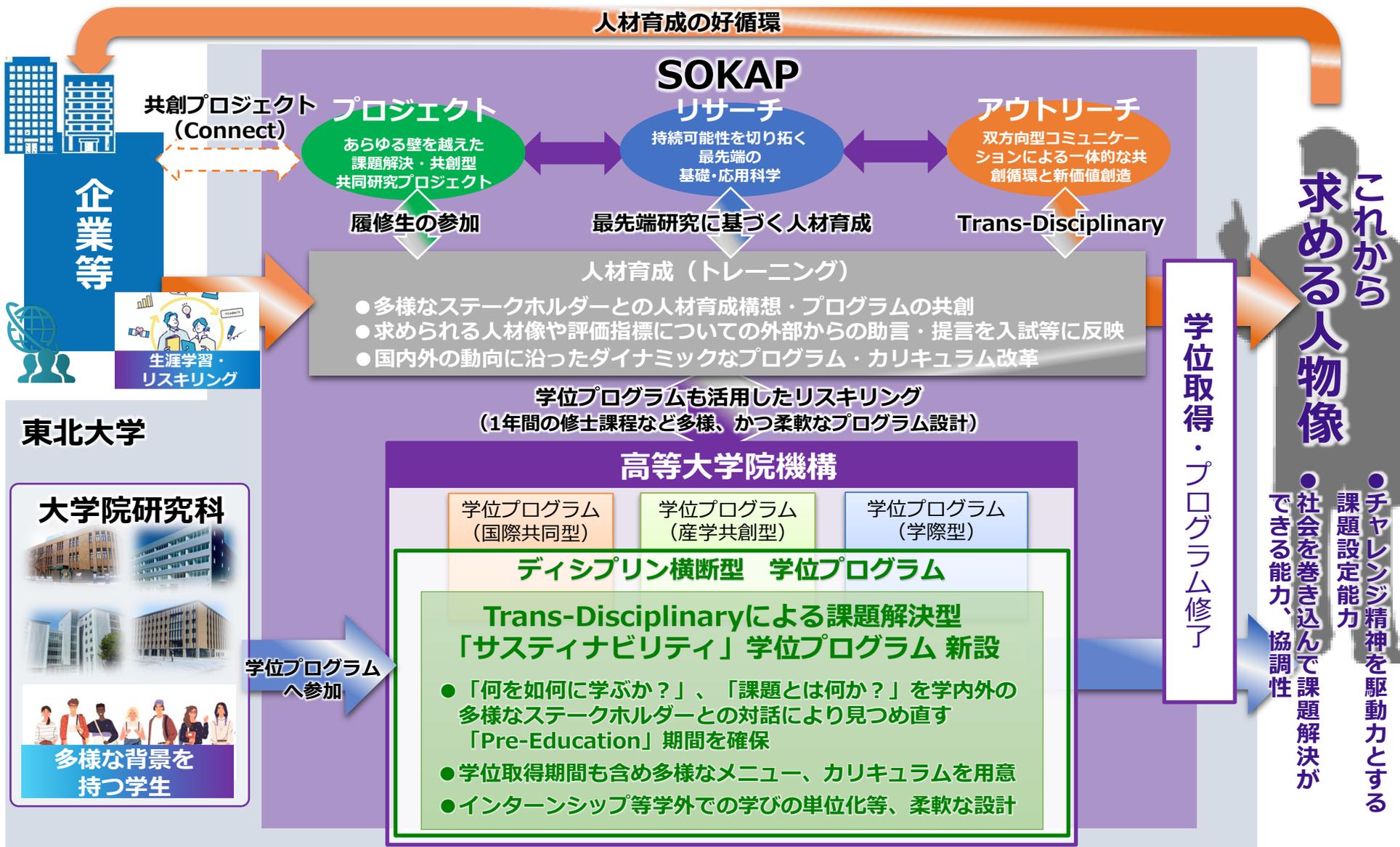
図.東北大学三階層研究イノベーションシステム

連携：東北メディカル・メガバンク機構、次世代放射光施設「ナノテラス」、
知の創出センター、URAセンター、コアファシリティ統括センター、
研究DXサービスセンター

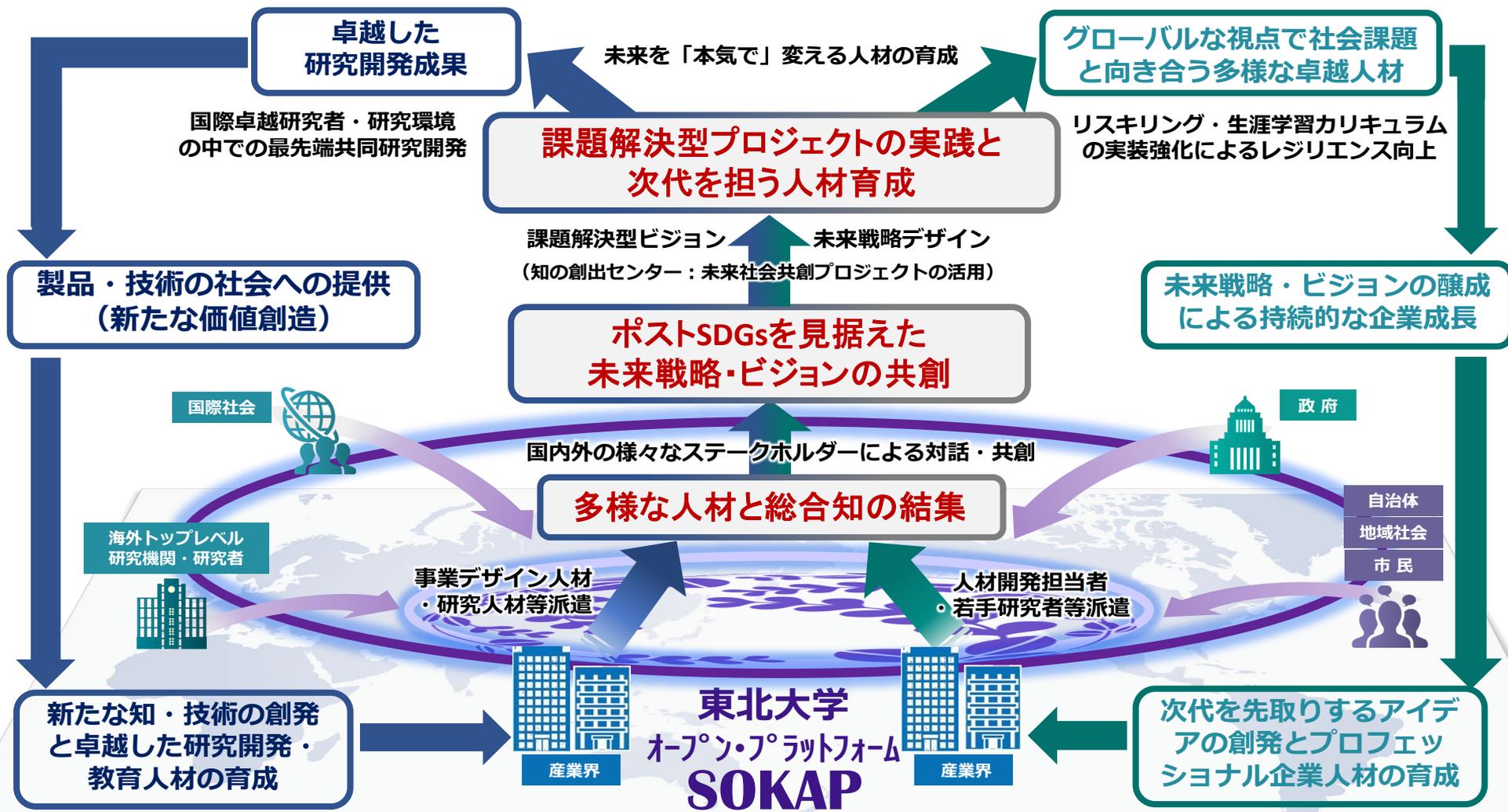
SOKAPにおける人材育成のイメージ

プログラム・カリキュラムの設計から在籍中の人材育成を学内外のステークホルダーとのエンゲージメントにより実現する新たな課題解決型「サステナビリティ」大学院プログラムを設置

人材育成の好循環



SDGs 2030のその先の地球環境と未来社会を共に切り拓く！



多様なステークホルダーとの共創で研究・人材育成のポジティブサイクルを産み出すプラットフォーム

背景

現在、人類は、人々の幸福に影響を与える多くの社会課題に直面しており、早急な対処が求められている。これらの課題の多くは、持続可能性（サステナビリティ）に関係しており、エネルギー、感染症、食料生産と消費、気候変動、生物多様性喪失などがその例である。これらの社会課題の解決においては、人文・社会科学と自然科学との融合による「総合知」の活用はもとより、多様なステークホルダーとのエンゲージメントと共創により新たな価値を創造することが求められている。

概要

事業の目的・目標

複数部局の研究者などから構成される異分野融合型・共創型研究グループによる社会課題解決型の研究プロジェクト提案を採択し、本学の総合知をもって社会課題解決に貢献する研究活動を推進するとともに、多様なステークホルダーとの対話やネットワーク構築を活発化する取組みを支援し、価値創造のエコシステムが躍動するプラットフォームの形成を通して人類の幸福度の向上（ウェルビーイング）の実現に寄与する。

申請の際に設定した条件

- ①「サステナビリティ」をテーマとし、持続可能な社会実現に向けての課題解決を目指す研究プロジェクト
- ②分野横断による「総合知」で推進する研究プロジェクト

スケジュール	2023年 3月～4月	公募
	2023年 5月下旬	採択
	2023年 6月	研究開始

研究プロジェクトの推進体制

- ①学内の異なる部局の研究者2名以上で構成する体制とすること。
- ②人文学、社会科学の研究者を含む体制とすること。
- ③海外研究者、若手研究者や学生、また民間企業所属の研究者等も含めた多様なステークホルダーを巻き込んだプロジェクト推進体制である、もしくは巻き込むための工夫が計画されていること。

プロジェクト実施期間 2年間

支援経費 最大500万円/プロジェクト・年

採択プロジェクト数 4件

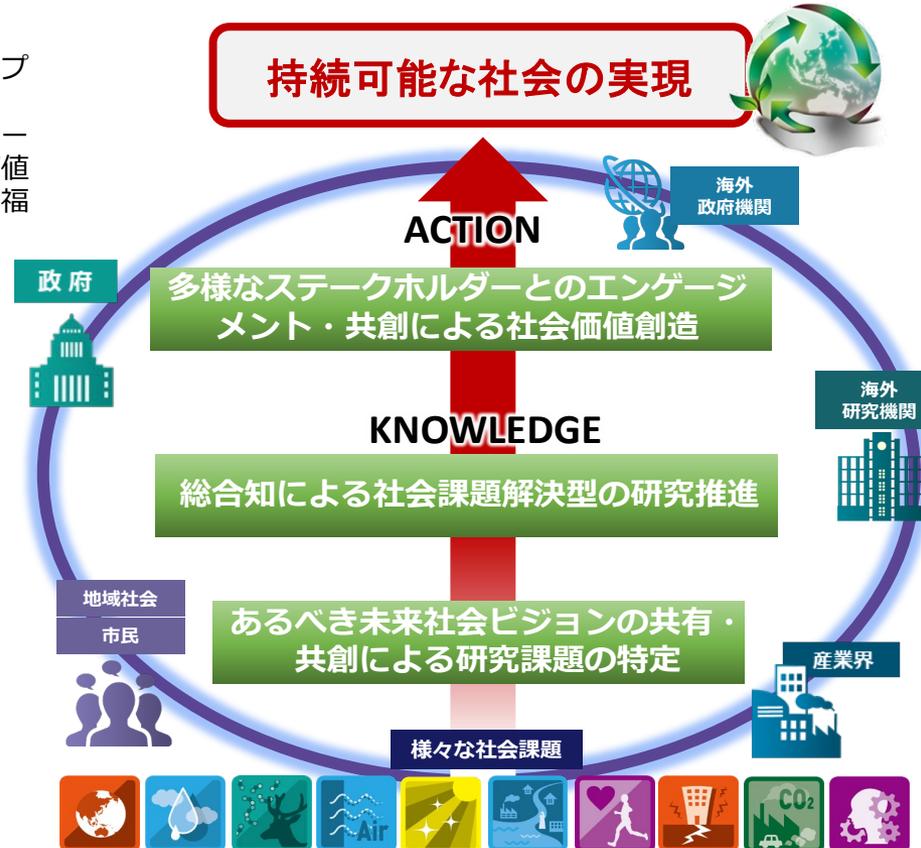


図.多様なステークホルダーを巻き込んだプロジェクト推進のイメージ



東北大学は社会とともにある大学として、従来型の高等教育機関の枠を超えた「Transdisciplinary」により最先端の知を迅速にアクションに繋げる「知識行動オープンプラットフォーム」の形成に向け、未来を豊かにするための取組みを進めています。

本シンポジウムでは、東北大学が目指すSOKAP構想や令和5年3月に創設したマルチステークホルダー共創支援プログラム「SOKAP-Connect」について東北大学への産業界からの期待を交えて紹介し、総合研究大学としてのあるべき姿を展望します。

Sustainability
Open
Knowledge
Action
Platform



SOKAPキックオフシンポジウム

総合知を行動に繋げ持続性を実現するオープン・プラットフォーム

- 主催** 国立大学法人 東北大学
- 日時** 2023年11月6日(月) 13:30~17:05
- 場所** 室町三井ホール&カンファレンス
(東京都中央区日本橋室町3-2-1COREDO室町テラス3階)
- 開催方法** 会場:定員約150名、ウェビナー:定員約500名
- 申し込み方法** 申込サイトまたはQRコードより受付 (7/中旬 開設)
URL:<https://e-ve.event-form.jp/event/57016/sokap1106>
QRコード: 
- 問合せ先** 東北大学 研究推進部 研究推進課



(室町三井ホール&カンファレンス：大ホール)



第1部



開会挨拶

東北大学
総長
大野 英男



基調講演

Jean Pierre Bourguignon
(IHES, former president of ERC)



SOKAP構想

東北大学
理事・副学長
(研究担当)
小谷 元子



SOKAP構想

東北大学
副学長
(教育改革・国際戦略担当)
山口 昌弘

第2部

セッション SOKAP-Research



東北大学
環境科学研究科
教授
松八重 一代



東北大学
工学研究科
教授
平田 泰久

セッション SOKAP-Connect



東北大学
農学研究科
教授
野地 智法



東北大学
東北アジア研究センター研究科
准教授
デレーニ アリーン

第3部

パネルディスカッション

- ・ 学外パネリストからのショートトーク
- ・ パネルディスカッション

東北大学講演者、若手研究者、
ベンチャー企業を検討



閉会挨拶

東北大学
理事・副学長
(研究担当)
小谷 元子